

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和3年度第9回 理事会議事録

令和3年9月28日（月）20:00～22:10

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、西良浩一、田中信弘、高相晶士、
筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、波呂浩孝、
松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・松山幸弘が議長となり、開会を宣して議事に入った。

理事長挨拶

冒頭に安全医療推進委員会の委員からのアンケート調査の報告を行ってから通常の理事会審議等へ移ると説明し、2名（手束委員、川口委員）を紹介した。

安全医療推進委員会からの報告1（手束委員）

脊椎脊髄手術における周術期抗血栓薬使用の安全性についての研究

スライドを用いて、アンケート結果や委員会での検討内容を報告した。『JSR』、『SSRR』、学会ホームページ、JSSR 学術集会での発表等オフィシャルに結果を公表したいとの提起があり、一同承認した。

安全医療推進委員会からの報告2（川口委員）

脊椎手術における部位確認に関する研究（脊椎手術のヒヤリハットアンケート）

スライドを用いて、アンケート結果や委員会での検討内容を報告した。オフィシャルに結果を公表するかについては様々な意見が出され、安全医療推進委員会内で再検討のうえ、理事会で再度検討することになった。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

前回議事録について確認を求めた。修正等ある場合は、渡辺理事へ一報する。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（8月分）

一名「特定会員」として外国人の入会希望があったため、西田理事が申請者の背景等について調べたうえで推薦人となった。8月の入退会について全員を承認した。

3. モニタリング認定関係の試験監督等への謝金について

モニタリング認定医の研修コースⅣが今年から始まったが、ワーキンググループのメンバーが、講師とそのあとの試験監督として分かれて対応した。講師には謝金が出されたが、試験監督は無報酬であったので、同様に謝金を出したいと提起した。

波呂理事が、専門医試験の監督についても同様に現在無報酬であるが、試験問題作成や当日の監督で時間を拘束しており、同様の金額にて謝金の支払いをお願いしたいと提案した。この謝金については、試験を共同運営しているNSJの飛驒理事長にも相談済みである。

一同検討の結果、どちらも手取り3万円の謝金を11月の専門医試験の試験監督から支払うことになった。

4. 50周年誌の発行、データアーカイブについて

当学会は発足が1974年のため50周年は2024年であり、50周年誌を作成するとなると、あと約3年の制作期間がある。日整会では60周年誌を作成したが、当学会は50周年誌を作るべきか60周年誌を作るべきかと提起した。

脊椎関係の他学会の記念誌作成の状況、資金、事務を含めたマンパワー、資料の保管など多方面から意見が出され、50周年記念誌を作る方向で進めることになった。新たに事務を雇うこと、資料保存のためのサーバーの準備なども認められた。

5. NLのバナー広告再募集について

昨年からは開始したNLの事業のバナー広告について、来年分の声掛けをそろそろ始めたいと提起した。現在までに申し込みしてもらった企業のリストが公開され、趣意書等は後日メールで理事会メンバーへ配布することになった。

6. NLの既読状況のアンケート調査について

NLの事業について1年が経過したこともあり、会員アンケートを取りよりよい情報を提供していくための足掛かりとしたいと提案し、業務にかかる見積額も説明した。

一同検討の上、承認した。アンケートの内容については、案ができ次第、理事会に上申する予定となった。

7. その他

- ・教育研修委員会より：研修コースⅡの廃止について

現在Ⅰ～Ⅳコースまでである研修コースについて、Ⅱコースについてはここ数年参加者が20名に満たず赤字であり、内容がJOAの脊椎脊髄病医のコースでカバーされているため廃止してはどうかと提案した。

一同検討の結果、2022年の学術集会から廃止することになった。

・英文誌編集委員会より：総説論文の依頼について、JSSR 総会抄録を基にしたショートサマリー号の発刊について

総説論文を追加する上での今後の方針として以下2点を提案したいとして検討した。

- 1) アクティブに活動されている海外の先生をピックアップし、総説執筆を依頼する
- 2) 過去10年程度のJSSR学術集会の会長を務められた先生方に、会長講演ないし専門分野について総説執筆を依頼する

以上検討の結果、承認された。

また、JSSR学術集会抄録を基にした「ショートサマリー号」の発刊について提案した。二重投稿とならないように注意しつつ、可能な限り早く準備することになった。

審議・報告事項

1. プロジェクト委員会報告)

先月に続き各プロジェクトの進捗状況についてスライドをもとに説明した。各プロジェクトとも登録症例数が増えてきている。

2. 英文誌編集委員会報告

『SSRR』は2021年(第5巻)より年6回発行となり、投稿数が増加していることや、採択率は31%程度と年々低下傾向にあり掲載論文の質向上が実現しつつあること、初回査読終了までの期間が17日と大変スムーズでacceptまでの平均日数51日である。

IF獲得に向けては、現在の暫定IFは1.028(2019年0.471, 2020年0.879)であり、被引用数が2021年に入り大きく増加している。

3. 倫理委員会報告

前回の理事会で「JSSR倫理委員会での審査が必要ではないか」としたJSSR-DBの件について、DB委員会の金村委員長より「JSSR-DBの著作権はJOAにあり、倫理審査もJOAにて行っているため、JSSRでの倫理審査は不要だと考える」との意見をいただいた。一同検討の結果、JSSR倫理委員会での審査は不要とした。

4. 国際委員会報告

8/27にASSI-JSSR onlineシンポジウムが開催され、JSSRからは松山理事長が挨拶し、4名がレクチャーした。インドからはお礼のメールとともに来年もぜひ同じようなことをした

いと希望が書かれていた。

Spine week2023（メルボルン）の開催日は2023年5月3日に決定し2slotsをJSSRで予約する予定である。

Spine20は9/17-18で開催され、188名が参加した。参加者内訳のなかで最多は開催国であるイタリアの47名だったが、日本からも11名が参加した。またSpine20からパートナーシップアドバイザーボードに3年任期で加わってほしいとの依頼があったが、そのボードに加わることでどのような義務を負うのかなどの情報を集め、委員会内で審議する。

5. 広報委員会報告

前回理事会以降に広報委員会で行ったホームページの更新業務について報告した。

理事会から指示のあった「専門医・指導医の定義について」は、指導医制度委員会での審議は終了、広報委員会にてHP掲載など周知方法を審議中である。

小田理事から依頼のあった、「日本整形外科学会の患者向けパンフレット」については委員会にて協議し、作成後10年以上経過した、腰椎椎間板ヘルニア等いくつかの疾患に関して広報委員会で作成予定である。

千葉理事が、学会ホームページ上で「JSSRの歴史」が、「会員・医療関係のみなさま」のページからアクセスしにくいので、すぐにアクセスできるところへの掲載を依頼し、田中理事が検討すると回答した。

6. 指導医制度委員会報告

2021年度の指導医新規申請、継続申請について今後の審査の予定を報告した。

また、上記広報委員会の報告でもあった「専門医・指導医の定義について」を委員会内で審議し、脊椎脊髄外科専門医については専門医制度委員会にて検討してもらったものを採用したとしてその文案を報告した。

松山理事長が、重要な部分が目立つレイアウトにしたほうがよいとアドバイスし、委員会で検討することになった。

7. 社会保険等システム検討委員会報告

椎間板内酵素注入療法技術料改定の費用対効果のエビデンス作成について、MED（200症例）ヘルニコア（100症例）との比較、社保委員会の参加メンバーと協力施設で症例を集め、今年度中にデータ報告することになった。成果物をもって2024年度要望の技術料増点申請を目指す。

ヒトロンビン含有ゼラチン使用吸収性局所止血材については、アンケートを含め全審会報告を行ったところ好意的な反応であり、スライド供与を求められたと報告した。そのスライドで示した「適正使用量の学会員への周知」については、示し方に注意が必要であると認識している。

2024年度新規要望項目については、年末に評議員アンケートを施行予定であると説明した。

8. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

前回の理事会で報告したJSSR会員に対して行った「中小脊椎関連学会の学術集会（イベント）統合についてのアンケート」の結果について委員会内で共有し、それぞれの担当学会へ持ち帰り、各学会内で意見を集約してまた持ち寄ることになった。

大鳥委員長が、特に秋の中小規模の脊椎関連の学術集会（イベント）を合同開催した場合の概算についてコンベンション大手の日本コンベンションサービス（JCS）に尋ねたところ、30%程度は経費を削減できるとの回答であった。また、JCSにこういった問い合わせをしたのは全診療科で脊椎外科が初めてであるとのことであった。

松山理事長が、学術集会の会長をすることができない教授等も増えているので、ダブル学会会長なども検討していく必要があると発言した。

9. その他の委員会報告

・安全医療推進委員会より：プリオン滅菌の件

前回理事会で議題に挙げられたプリオンの滅菌について委員会内にて検討し、アンケートは実施せず、厚労省から通達があったということを学会内で周知することになった。

・用語委員会より：用語集の残部の件

数回前の理事会で用語集の残り約 100 部を全国の教授に配布しようということになっていたが、実際は約 400 部残部があることがわかったため、残りの約 300 部をどこに配るか提起した。この配布先について検討し、大学を含め 334 施設ある専門医の基幹研修施設へ送付することとなった。それでも残部が出た場合は、北里大学で数 10 部程度保管することなども検討する。発送先リストは、基幹研修施設に含まれない大学の教授宛など、高相理事のほうでまとめる。

・メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：名誉指導医になっている会員が行政処分を受けた件

名誉指導医にもなっている某会員が行政処分を受けたことについて、委員会内の意見では、除名やむなしであり、名誉指導医の資格も除名とともに消失するとの意見が大半であったが、JOAに除名の手続きを聞いたところかなり煩雑であることもわかった。一同検討の結果、本件についてはJOAの対応を待ちつつ、審議を続けることになった。

10. その他

・評議員継続（更新）の件

今月末で評議員の申請が締切となるが、対象者のなかで未提出がかなりいる。未提出者には

一斉メールで連絡することになった。

・理事会議題と資料の提出について

前々回より Web フォームで収集している理事会議題であるが、議題なしに資料が送られてきたり、資料が締切後に送られてきたりしている現状を説明した。Web フォームへの議題の記入と資料の提出期限厳守について一同承知した。

以上

令和3年9月28日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭